

区議会
レポート

地下鉄中野新橋駅バリアフリー化実現

近々とは一体いつのことなのか

中野区 第三回定例議会で区長に質問

9月21日、一般質問に立った佐野議員は、中野新橋駅のバリアフリー化について「東京メトロからは、近々に方針や考え方を示す予定と聞いている」との区長の答弁に満足せず、「近々とは一体いつのことなのか」と再質問で明確な日時を示すよう迫りました。

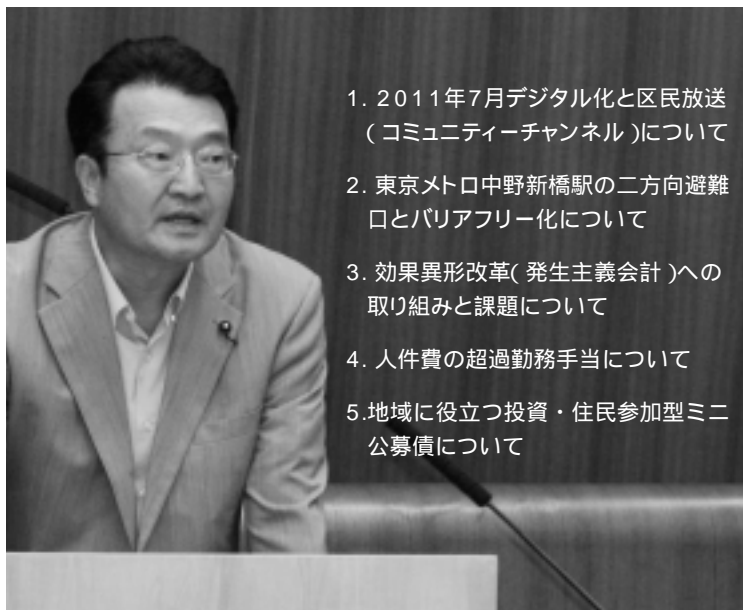
これに対し区長は「近々とは数ヶ月程度を指すものだと思う」と答え、佐野議員は早期実現を重ねて要請しました。

デジタル化になっても
区民放送の視聴はできる!

現在、約7割の世帯が接続している(株)シティテレビ中野のCATVは、地上デジタル放送への完全移行後も、情報インフラとして地域情報化に活用していくとの方針が示されました。

中野新橋駅のバリアフリー化の
早期実現をさらに要請

19年度設計、20年度着工予定についての詳細な近隣説明会を早急に開催するよう、メトロ側に強く申し入れて戴きたいとの佐野議員の要請に対し 区



質問に立つ佐野議員

1. 2011年7月デジタル化と区民放送(コミュニティーチャンネル)について
2. 東京メトロ中野新橋駅の二方向避難口とバリアフリー化について
3. 効果異形改革(発生主義会計)への取り組みと課題について
4. 人件費の超過勤務手当について
5. 地域に役立つ投資・住民参加型ミニ公募債について

の財政管理ができる発生主義会計(複式簿記)への改革の必要性を訴えましたが、区長は現在自らを責任者として公会計改革本部を設置し、この問題の実現化に取り組んでいると答えました。

超過勤務手当で4300万円削減(平成18年度)

佐野議員が議会で再三追求してきた、ここ数年上がり続けている超過勤務手当について、18年度は総額5億4500万円で、前年度より4300万円削減されま

としては、検討結果が出た際には住民説明会を開催するよう要請をしていると答えました。

公会計をわかりやすく民間企業と同じ方式に改めるべきだ!

佐野議員は昨年の決算特別委員会で、現在区で行っている現金収支のみに着目して経理する現金主義会計(単式簿記)から、すでに東京都で取り入れている資産の移動や収益、費用の事実によって財産や負債などを含む、トータルとして

した。今後とも必要最小限の時間で成果を上げられるよう要請しました。

地域に役立つと言われる投資
住民参加型ミニ公募債発行は見送り
中野区でも他区のようにミニ公募債(地方公募債)を発行したらどうかとの質問に、利率、各種手数料等が他の起債に比べて高くなり、結果として区民全体の財政負担を増やすことになることから、現時点ではミニ公募債の発行は見送っていると区は答えました。